

できることから  
はじめよう！  
環境にいいこと  
ひとつずつ



# 城陽エコパートナー通信 Vol.83

発行日:令和6年(2024年)10月25日 編集・発行:城陽環境パートナーシップ会議  
会員数:269人(令和6年9月30日現在) (事務局)Tel(56)4061 Fax(56)3999



## 夏休み子どもエコバスツアーを開催しました。



文:大野 和宣会長

この夏は平均気温が昨年に続き過去最高を更新したそうです。コロナ禍が収まり平穏な日常が戻るとの思いも虚しく、次は熱波、猛暑、台風、大雨の襲来です。私たちの社会には次々と難問が押し寄せてきます。地球温暖化がもたらす気候変動を実感せざるを得ない夏となりましたね。

夏休み子どもエコバスツアーはコロナ禍が明けて久々の開催です。8月23日(金)午前9時30分に総勢21名が城陽市役所に集合しました。

行き帰りとも交通渋滞に巻き込まれ長い車中となりましたが、生活・自然部会のメンバー(中川委員、岡井委員、本城会員)や講師の竹野功霊氏が、野鳥に関するクイズや解説をしてくださり、子どもたちも飽きることなく楽しく最後まで盛り上がりました。



### 淡水生物 生息域外保全センター びわこベース

はじめに訪れたのは別名「小さな水族館 びわこベース」と呼ばれている施設です。ここは生物学や生態学、環境保護の視点でも重要な施設です。運営は研究を担う学者やその卵たちでされています。学術的価値の高い研究施設のようなので、ぜひホームページをご覧ください。琵琶湖北西のJR蓬萊(ほうらい)駅近くの国道沿いにある一軒家がその水族館です。小さな水族館ですが保全されている淡水生物の種類の高さと専門性の高さは一見の価値があります。みなさまもぜひ訪れてみてください。



### 高島市新旭水鳥観察センター

次に訪ねたのが琵琶湖をさらに北に向かった所にある、野鳥を観察できる施設です。琵琶湖を一望でき、観察に適した環境なのですが、この季節は冬に比べ渡り鳥の姿が無く鳥の数は少ないとのことでした。それでもスコープ(望遠鏡)を通して湖面を眺めると自然の中で過ごす水鳥の様子が手に取るように観察できました。種類の多さと迫力は一見の価値があります。ここもぜひ訪ねてみてください。



### 生き物を観察して感じる

私たち人間も地球上の多様な生物の一部として生きています。環境の変化で生物多様性が失われ続けると人類の生存も危うくなります。

自然観察会などを通じて生き物や自然環境の変化を知ることの大切さを改めて感じました。



## 第2回自然観察会を開催しました！

文：事務局

令和6年7月6日(土)、今池川で自然観察会を開催しました。毎年夏は今池川にて川辺の生き物の観察会を実施しています。当日は曇天ではありましたが、暑すぎず穏やかな気候の中、ゆっくりと観察することができました。

環境生物研究会の竹野功璽氏をメイン講師としてお招きし、野村隆俊氏、岡井勇樹氏、林博之氏にも水生生物の解説をしていただきました。

参加者は保健センター駐車場に集合し、講師の紹介の後、今池川沿いに東へと進んでいきました。

今池川が曲がる場所にある市道203号1号橋を目標に進みます。進む道すがら、アカミミガメやクサガメを発見し、観察しました。特にアカミミガメはかなりの数生息しており、この日だけでも数十匹を確認しました。アカミミガメは雑食で繁殖

力が強く、もともと生息している生き物やその餌となるものを食い荒らし、生態系を攪乱するため、今では駆除の対象となっている「条件付き特定外来生物」ではありますが、オスとメスの違いや生態についての解説を聞き、生きた教材として役立つことができました。特に子どもたちは間近で興味深く観察していました。

講師陣は川に入り、水生生物の観察をしながら進んでいきました。

川を網ですくうと、カダヤシ・タモロコ・ドンコ・スズエビ等を

確認できました。そして、橋に到着した後、橋から50メートルほど南に向かった地点でシマヘビを発見しました。

シマヘビは川を渡ろうとしていましたが、中川委員が川に入り捕獲しました。中川委員は体長1mほどのシマヘビを自身の首に掛け、急遽シマヘビの触れ合い体験が始まりました。参加者の中には、恐る恐るシマヘビに触れてみる方や、直接両手で持ってみるチャレンジャーの姿がありました。

また、中川委員がヘビの口の中に穴が開いている様子を見せながらカラダの仕組みを解説しました。ヒトは、食道と気管が途中まで繋がっていますが、ヘビは、食道とは別に呼吸をするための気管を持っており、その入口が口の中にあります。ヘビは獲物を咀嚼せずに丸飲みするため、窒息しないようにこのような体のつくりになっているとのことでした。解説を受けると参加者は興味津々にヘビの口をのぞき込み、大いに盛り上がりました。

最後に参加者らで記念撮影をして、無事に観察会を終えることができました。

今回、確認した水生生物は計19種でした。昨年度と同数ではありますが、工事などで周辺の環境が変わっている影響か、砂地に生息するニゴイやオイカワ等が観察できませんでした。今後も、継続して今池川での観察会を続けていきたいと思っております。





## 環境出前講座を実施しました！ 文：芦原 昇副会長

毎年恒例の市内保育園を対象とした「環境出前講座」が、今年も無事に終了しました。悪化する地球環境の改善に向け、次世代を生きる

子どもたちに、環境に対する理解を深めてもらい、少しでも意識してもらおうと始まった、循環・地球環境部会の中でもとりわけ重要な事業のひとつです。実施後は部会メンバーとも今年の活動を振り返り、「子どもたちの反応も良く、今年度も成功に終わった」と総括しました。

しかし、今年は普段に輪をかけた酷暑で、来年以降もどうなるのか予断を許さない中、過去の経験則は全く通じないことを実感しています。個人的に地域の子どもたちとおこなっている芋植えは、暑さと水不足で完全に失敗しました。そんな中、今回の出前講座の内容のままで、進みゆく温暖化に対応できるのかと課題も感じています。

地球全体を見渡しても、SDGsが策定され、一人の不幸な人も出さないという声掛けとは裏腹に、人間同士血で血を洗う毎日が続いています。国内に目を向けてみても、環境が争点の中心になるどころか、そんなことはお構いなしというような国政選挙等が続いているのが現実です。

こんな時こそ落ち着いて、「カーボンニュートラル」を掲げる市役所を中心に、20年以上の歴史を持つ城陽環境パートナーシップ会議で論議を重ねた事業を、地道に積み重ねる必要性を再認識しました。



## 廃食用油リサイクル工場等の見学に行きました。 文：浅田 和利委員

7月4日(木)、市民及び環境パートナーシップ会議の17名が、使用済み食用油のリサイクルについて学ぶため「京都市廃食用油燃料化施設」及び「さすてな京都」の見学を実施しました。

まず、京都市廃食用油燃料化施設(平成16年稼働)にて、廃食用油の燃料化について施設紹介ビデオや実際のバイオディーゼル燃料(BDF)、施設設備を見て学びました。当初は、すべてBDFであるB100や軽油に一部BDFを混ぜたB20を利用し、バスやごみ収集車に使用していたものの、「揮発油等の品質の確保等に関する法律」の改正により、平成21年以降は軽油と混ぜる場合は原則5%までとなり、現在はB100とB5を使用しています。施設も20年が経過し、老朽化が目立ちましたが、今後の方針は未定となっているようです。先進的な取り組みであった廃食用油のリサイクル施設ですが、今後どのような形に進むとしても、市民のリサイクルへの意欲を削ぐことにならないような活用方法を模索していただきたいです。

次にさすてな京都へ移動し、見学をおこないました。環境問題に関するクイズや様々な体験コーナーが並び、子どもたちも楽しみながら環境について学ぶことができる工夫があちこちにありました。また、クレーンがごみを投入する場面にも立ち会い、日々の生活を支える仕事の一端を見ることができました。

最後に、煙突を利用した展望台では京都の景色が一望することができ、これまでの環境学習施設とは異なる一面を知ることができました。



**第23回**

**城陽市環境フォーラム**

2024年 **11月30日** 土

文化パーク城陽 市民プラザ  
京都府城陽市寺田今堀1番地

**11:00~15:00**  
※終了時刻は前後する可能性があります。

テーマ **パートナーシップで実現する持続可能な社会**

共催 城陽市  
城陽環境パートナーシップ会議

着物リメイクファッションショーや生物多様性についての講演会、エコなワークショップなど、今年も楽しいイベントが盛りだくさんです♪

ご来場でエコ・アクション・ポイントが貯まる！

シロクママークが目印です

ご来場いただいた方に  
**30ポイント**を付与します！

会員の皆さまへ！

**エコパートナー通信(本通信)を電子版にしませんか？**

城陽環境パートナーシップ会議が、年4回お届けしているこの「城陽エコパートナー通信」ですが、**ペーパレス化によるCO<sub>2</sub>削減**の観点から、電子送付へのご協力をお願いしております！

●**会員通信の電子送付の申し込み方法について**

右の二次元コードを読み取り、専用フォームから必要事項を入力し、送信ボタンを押してください。



※ご入力いただいた情報は本人確認および会員通信送付のためにのみ使用します。

**現在、会員数269名のうち、54名が電子送付にご賛同いただいています！**

**エコ・アクション・ポイントとは？**

環境省が推進する全国共通のポイントプログラムです。対象のエコアクション(環境にやさしい行動、サービスの利用等)を行うとアプリ上でポイントが付与され、貯めたポイントは各種ギフトカードや商品と交換することができます。

城陽市では、令和5年8月からエコ・アクション・ポイント事業を開始しています。



市ホームページ

**アプリのダウンロードは以下からシロクマのマークのアプリです！**



App Store  
からダウンロード  
iPhone など



Google Play  
で手に入れよう  
Android

アプリをお持ちでない場合公式サイトからも会員登録ができます。  
ホームページ▶ <https://www.eco-action.jp>

※アプリや登録方法に関するお問い合わせは、エコ・アクション・ポイント事務局まで  
(☎0120-889-614 10:00-17:00/土・日・祝・年末年始休)

**株式会社城南工建**  
〒610-0113 京都府城陽市中芦原27番地の1  
TEL 0774-53-3939 FAX 0774-55-1172

**株式会社東城陽ゴルフ倶楽部**  
京都府城陽市寺田奥山1-48  
TEL 0774-52-1161

**株式会社ミズホ**  
マサツのない世の中へ。  
砥石で、未来を磨いてゆく。

京都城陽ロータリークラブ、近畿砂利協同組合、サントリープロダクツ(株)宇治川工場、城陽金融会、城陽市、城陽商工会議所、星和電機(株)、(株)玉井開発、日本観光ゴルフ(株)城陽カントリー倶楽部、(株)平和堂アル・プラザ城陽、森澤博光 ※令和6年6月30日現在(五十音順・敬称略)

上記の団体・個人の方から賛助会費をいただきました。誠にありがとうございました。